

れんこんの施肥は適正に ～収量をとって、環境にもやさしく～

茨城県 令和3年7月

過去2～3年の収量に応じて、適正な施肥量は変わります

- ・れんこんは、土壌や気象条件による影響が大きく、肥料を増やしても増収はしません。過去の収量に基づいて施肥量を調節します。
- ・肥料の入れすぎは、生育不良につながり病虫害の被害も受けやすくなります。
- ・適正な施肥により、肥料代や散布労力を減らし、環境負荷も抑えられます。

表1 れんこんの収量実績に応じた適正施肥量

過去の収量実績* (4kg箱数/10a)	施肥量(kg/10a)		
	窒素	りん酸	カリ
400	12	6	16
450	15	8	20
500	18	10	24
550	21	11	28
600	24	13	32

*：目標とする収量ではありません

過去2～3年の収量が600箱/10aより少ない場合肥料を減らせます

れんこんの生育に合わせた基肥一発肥料が便利です

《肥料の特徴》

- ・生育の旺盛な時期に多く溶け出すように設計されています。
- ・追肥作業は不要で省力的です。
- ・肥料分の流出も少なく環境にやさしい肥料です。

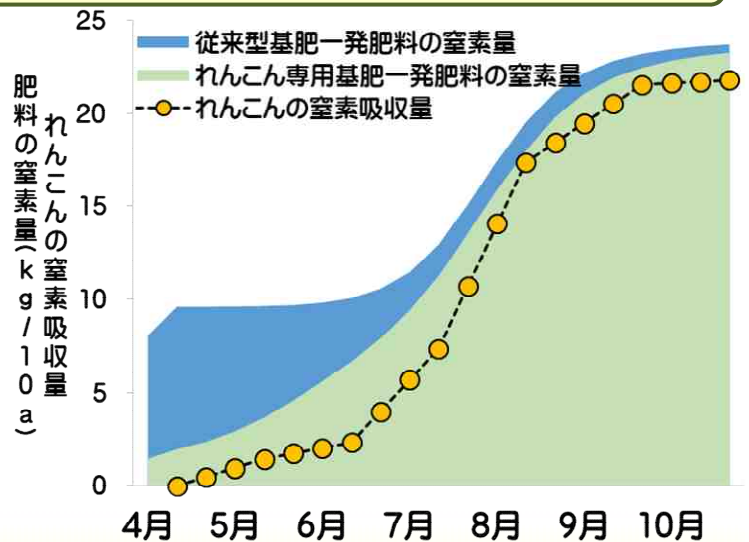


表2 れんこんの生育に合わせた専用基肥一発肥料の使用の例

肥料名	肥料成分 (%)			500～600箱/10aの施用量	備考
	窒素	りん酸	カリ		
レンコンキングⅡ	15	8	20	6～8袋	
蓮のきらめき	14	8	14	7～9袋	カリの多いほ場向け
レンコンアタックV	30	0	10	3～4袋	りん酸・カリの多いほ場向け
えこはす	9	6	21	6～8袋	石灰窒素を入れるほ場向け

石灰窒素を入れるときは窒素肥料を減らしましょう

春期（2月～4月）施用では、10a当りの石灰窒素100kgの投入は窒素肥料10kgの施用に相当します。

Q：石灰窒素100kg（5袋）/10aを入れた場合の施肥量は？

A1：施肥窒素量を約10kg減らします。
（≒500～600箱収量で**施肥量約半分**）

施肥量を減らした場合は、表1を参考にしてリン酸・カリを単肥で施用します。

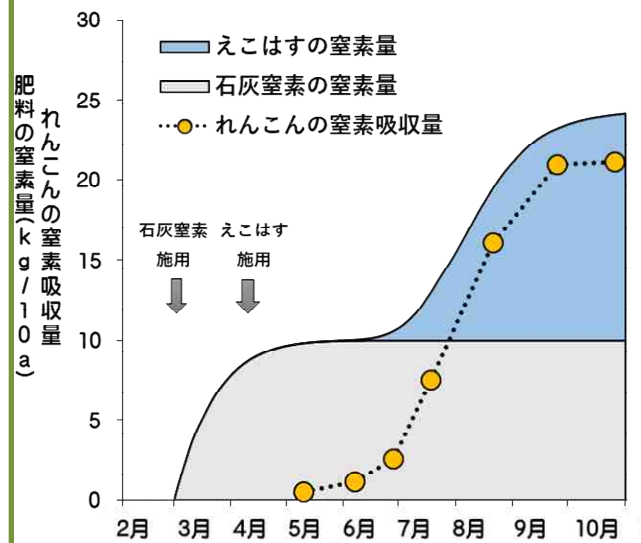
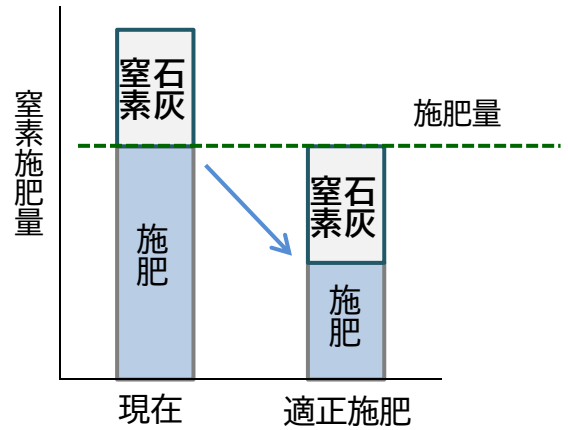
例)収量600箱:レンコンキングⅡ(5袋)を施用した場合
単肥施用量(kg/10a):リン酸5、カリ12

または、

A2：石灰窒素併用型の肥料「えこはす」*を使いましょう。

⇒10aあたり収量500～600箱で6～8袋

*「えこはす」は石灰窒素の肥効を考慮して窒素分が遅効きする肥料です。



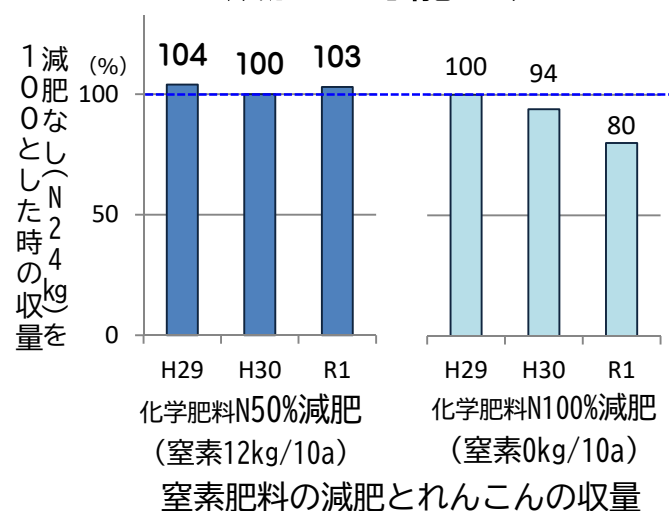
石灰窒素と「えこはす」の窒素溶出量

～(参考)ほ場に一定量の窒素が残っていれば減肥が可能です～

現在、県では残存窒素を考慮した「診断施肥技術」の開発に取り組んでいます。

○窒素の50%減肥を3年間続けても減肥なしと同等の収量が得られます。

○窒素の100%減肥では、1年目は減肥なしと同等、2年目からやや減収します。



【問合わせ先】 茨城県農業総合センター専門技術指導員室
水戸地域農業改良普及センター
行方地域農業改良普及センター
土浦地域農業改良普及センター
稲敷地域農業改良普及センター

TEL:0299-45-8322
TEL:029-227-1527
TEL:0299-72-0256
TEL:029-822-8517
TEL:029-892-2934



茨城県 令和3年7月作成